

高田短期大学通信

2014年(平成26年)6月12日 発行 高田短期大学・編集 図書委員会

新しい年度を迎えて

学長 栗原 廣海



新学期が始まって早二か月が過ぎました。新入生の皆さんは、宿泊研修も終えて新しい友だちも増え、高田短大の学風や九十分の授業にもそろそろ慣れて、楽しいキャンパスライフを送っておられることと思います。二年生の皆さんは、後輩を迎えて先輩としての自覚も深まり、いよいよ学業に対する取り組みの姿勢も真剣さが高まってきたのではないかと思います。

さて皆さんは、本学のホームページに「JACA Accredited College」の文字の入った丸いロゴが置かれているのを知っていますか。「知らなかった」という人は、一度確認してください。そしてそのロゴをクリックして、「自己点検・評価」のページを開いてみてください。このページには、本学が教育研究や組織の管理・運営等について自己点検・評価をすることによって現状を把握し、向上・改善に努めてきた足跡が記されています。

そして下の方には「第三者評価の結果について」という項目があるのに気づかれると思います。「第三者評価」というのは、各大学の自己点検・評価に基づいて、教育研究や組織の管理・運営等について国の認証を受けた認証評価機関の評価を受けることを言います。それによって、大学の自己点検・評価がより厳密に行われるようになり、教育研究の質の向上・改善が一層促進することを目指したものです。

この制度は、最初は国立大学を主たる対象としてスタートしたのですが、平成十四年八月に出された中央教育審議会答申「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について」において、すべての大学・短期大学を対象として実施すべき旨が答申されました。それを受けて平成十六年四月、「学校教育法」に認証評価機関による評価を受けることが義務づけられ、「第三者評価」は平成十七年度から本格的にスタートしました。以来、七年に一度、「第三者評価」を受けなければならなくなったので

本学は、この制度がスタートして三年目の平成十九年度に、「短期大学基準協会」の評価を受け、すべての評価領域において「合格」、「向上・充実のための課題」や「早急に改善

を要すると判断される事項」は「なし」と判定されたのでした。ホームページの「JACA Accredited College」のロゴは、評価結果が「適格」であったことを証明するものです。

以来、七年が過ぎ、第二期間の「第三者評価」を本年受けなければなりません。この七年の間に大学が目指すべき理想像は大きく変化し、本学もさまざまな改革に取り組んできました。入学式の式辞でも言いました「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)」をはじめとする「三つのポリシー」の明文化もその一つです。

「ディプロマ・ポリシー」には、皆さんが二年間、本学で学修して身につけることができる「学修成果」が示されています。その成果を得るためには、皆さんに積極的、主体的な学修が求められています。今年度から運用している「Webシラバス」には、「予習」「復習」等の「時間外学習」が指示されていますが、これは、皆さんの授業時間外の、積極的、主体的学修を支援するためのものです。

他にもさまざまな取り組みをしてきましたが、それらの成果をもって、第二期間の「第三者評価」を受けたいと、今準備を進めているところでです。

目次

学長のこゝろ	1
学科紹介	2
子ども学科	2
キャリア育成学科	2
オフィスワークコース	3
介護福祉コース	3
学生生活・学生生活支援	4
学生自治会、新入生宿泊研修	4
オーストラリア研修、	5
キャリア支援センター	5
図書館(ラーニングコモンズ、	6
保健室、カウンセリング室)	6
地域連携施設等	7
地域連携センター	7
介護福祉研究センター	7
仏教教育研究センター	8
育児文化研究センター	9
教員免許状更新講習	9
高大教育交流	10
着任、人事、同窓会近況	10
卒業生からのメッセージ	11
賃借対照表	11
就職状況、編集後記	12



新・保育制度と保育の質



子ども学科長
千草 篤磨

平成二七年四月より新しい保育制度がスタートします。

保育所など従来からの認可施設に加え、「保育ママ」や「ベビーシッター」などが新たに認可されることとなります。これら小規模の保育事業に従事する者は必ずしも保育士資格を持たなくても良いことになっており、保育の質が問題となります。

また、子どもの保育時間が親の勤務形態により、「長時間」、「長時間」に分けられるなど、保育の必要量が判定されます。子どもによって保育時間が異なるので、保育士が保育計画を立てることが難しくなります。

このような新制度の下であっても、保育の質を高め、子どもにとって最善の利益を保障していくことが保育士の役割です。教員、学生、卒業生が共同して情報を共有し、乗り越えていきたいと思います。

活動報告

一年生の高田幼・保の見学実習
学生は入学して初めての实習ということで、はりきって取り組み姿が見られました。様々な活動の場面で学生と子どもが関わる姿がありました。



子どもと直接触れ合うことの難しさや楽しさを実感することができました。

オープンキャンパス

体験コーナーでは、「保育コーナー」「音楽コーナー」「授業・実習コーナー」「三コーナーと音楽施設見学を実施しました。学生主体

夢は日本一！



子ども学科二年
伊藤ありさ

私は幼稚園の頃から幼稚園の先生になりたいと思っていました。高田短期大学の教育方針に「やわらか心」が溢れた先生になりたい一心で高田短期大学に入学しました。本学には親身になっていただける先生方が多く、どんな話でも聞いて頂き本当に楽しく

の活動がほとんどで、様々なコーナーで参加者と本学学生の関わりがあり、本学での学びについて知っていただける機会となりました。

私立保育園就職セミナー

「保育園で求められる人材とは」杜の街ゆたか保育園長の太田美香先生から保育園の概要や保育方針、期待される保育者像などについてご講話いただきました。求められる保育者として「心と体の健康」「やさしい気持ち」「豊かな感性」など、五つの項目を挙げられました。続いて、本学平成二二年度卒業生の伊田先生と小久保先生より学校生活の経験や保育者になるきっかけ、職場でのエピソードなど熱い話をしていただきました。学生も現場の話を聞くことで、貴重な学びになりました。

安心して学校生活を送ることができています。私は講義で学んだ知識、実技で学んだ技術を生かして自主実習などにも積極的に取り組んでいます。実習では本心に可愛い子どもの姿や子どもたちならではの純粋な気持ちに触れることができ、とても楽しく幸せな気持ちになります。残りの学校生活を先生方や同じ夢に向かう仲間と楽しく有意義に過ごし、また実習では現場で活躍出来る様なスキルを身につけたいと思います。

子ども学科に入学して



子ども学科一年
伊藤 真麻

もう入学して一か月が経ちました。とても早く感じます。毎日受ける授業はすべて保育に繋がっているのので、一つひとつを真剣に受けていかなければ、と思います。

そして、同じ夢を持った仲間と大学生活を送ることは私に新



木の苗を植える

河崎 道夫

先日、保育者に聞いた話である。二歳の子を膝に乗せて絵本の表面に人差し指を乗せてスツと横に動かしたそう。絵が変わらないのでげん顔をされたそうである。視覚刺激の変化を求める手段はテレビの放映以来日進月歩であるが、そうしたものがすぐに子どもの生活と成長のありように広がっていく今日である。一方で、最近、筆者が栽培している「むくろじ」の苗を四カ所の幼稚園・保育園に贈った。三カ園は自分で植えに

しい世界観をもたらしてくれたいです。これからの大学生活を充実したものにし、立派な保育者になれるよう頑張ります。

行ったが、一カ所は広島で、途中の京都で手渡した。羽根突きの羽根の先端に使う黒い実があり、子どもが遊ぶのに面白い木である。その実がつくまでに五十年はかかるだろう。実にのんびりとした話で、そうなるまでに保育園・幼稚園が存続しているのかも心もとない。それでも、六年前にある幼稚園に植えた「くぬぎ」の苗が、大人の背丈を越えて大きくなり、そのうちの一本にあの大きなドングリがついたと聞けばやはりうれしい。

短期の「成果主義」による「評価」で保育者が追われる状況は、子どもの生活と成長のあり方の根源において働きかける視点と喜びを保育者から失わせるだろう。それではほんとうの「成果」はあがらない。

キャリア 育成学科 オフィスワークコース



新学科の完成年度を迎えて



キャリア育成学科長
オフィスワークコース長
鷺尾 敦

今年、二年生五六名とオフィス人材育成学科の二名に加え、六三名の新生を本コースに迎えました。新入生宿泊研修が終わり、今年度の活動がいよいよ本格的に始まりました。昭和五九年に教養科が誕生し、教養学科、オフィス情報学科、オフィス人材育成学科を経てキャリア育成学科オフィスワークコースが昨年誕生しましたが、本コースは、キャリアデザインを描き実現するためにヒューマンスキルと社会人基礎力の上に、オフィス、ビジネス、会計、情報、医療福祉のビジネス実務の専門能力を身につけ、「あなたでなければ」と地域で求められる人材の育成を目指しています。来年三月には教育成果というべき本コース最初の卒業生を地域に送り出します。この歴史あるコースが、地域で求められるコースとなるよう教員一同、教育研究活動に一層の努力をしていきます。

活動報告

日本酒ラベルコンテスト

地域の酒蔵メーカーや酒販売店とコラボレーションして高田短期大学オリジナル商品「やわらか心(日本酒)」を商品化しました。商品の顔となるラベルは、オフィスワークコースの学生がプロジェクトの趣旨を理解したうえでデザインした作品の中から、投票で決定しました。



電話応対コンクールの開催

ビジネスマナーの講義で学習した知識や技能を活かしながら、チームごとにスクリプトを作成、練習を重ねた成果を發揮しました。

一年間を振り返って



キャリア育成学科
オフィスワークコース二年
河島 菜月

この一年間、資格取得やボランティアに積極的に取り組む、二年生になった今、就職活動も始まり充実した毎日を送っています。資格・検定については出身の普通科高校では受験していません。資格・検定についてはいなかったので不安ばかりでしたが、指導してくださった先生や、一緒に勉強して励ましあつ

た。電話での自然な会話のやり取りを通して、お客様のニーズをつかみ喜んでいただけるような分かり易い説明を心がけていました。優秀なグループには、栗原学長から賞状が授与されました。



その他、シニアパソコン教室(一般の情報ボランティアと協働で実施)や学科公開セミナー(昨年度は田嶋正初級講座)では、学生が中心となり当日の講師を務めると共に、事前の教材作りも行いました。また「租税教室プロジェクト」では、鈴鹿税務署、鈴鹿法人会と連携し、事前の勉強会を受講した後、鈴鹿市・亀山市内の小学校で、税金に関する授業を実施しました。

高田短期大学でなりたい自分に



キャリア育成学科
オフィスワークコース二年
古川 璃菜

私が高田短期大学に入学して、早くも一か月が経とうとしています。入学当初は新しい環境に慣れず、期待と同時に大きな不安を抱えていました。しかし、新しくできた友達と笑いあい、学んでいくにつれ、私の不安は楽しさと成長していき喜びに変わっていきました。今

では、毎日がとても充実しています。

私は、大学生活においてのテーマを「挑戦」にしています。この大学では先生と学生との距離が近く、私達を親身になって支えてくれます。その環境の中で、資格取得やサークル、ボランティア活動などに積極的に取り組み、新しい自分をどれくらい発見できるのか試したいからです。そして社会に出たとき「あなたでなければ」と求められる存在になりたいと思います。



日本語は曖昧な言語か?

野呂 健一

「日本語は曖昧な言語なので、論理的思考には向かない」と言われることがあります。多くの場合、英語等と比較され、例えば、「I love you」が日本語では「愛してる」となり、誰が誰を愛しているのか分からず曖昧だと言われます。文化人類学者E・ホールは、日本はハイコンテクスト社会であると述べています。日本語の場合、話し手は言葉では全てを言わず、残りを聞き手に推測してもらいます。つまり、言わなくても分かることは言わないのです。「愛

してる」の例でも、前後の文脈やその場の状況から、誰が誰のことを愛しているのかわかるから言わなくても、曖昧になることはありません。また、「お出かけですか」「ちょっとそこまで」という会話において、「そこまで」では具体的な場所が分からず曖昧だということもあります。この場合、尋ねる側も具体的な場所を知りたい訳ではなく単なる挨拶にすぎないので、「そこまで」と答えれば十分なのです。そもそも日本語が曖昧なら私達のコミュニケーションは混乱に陥ることでしょう。曖昧な日本語があることすれば、それは話している人の問題です。皆さんには明確に意思を伝えられるような日本語表現力を身につけてもらいたいと思います。

キャリア 育成学科 介護福祉コース



介護福祉の専門性を追求



介護福祉コース長
千草 篤磨

三重県の高齢化率（人口全体に占める六五歳以上人口の割合）は、平成二三年度で二四・四％でした。これは全国平均の二三・三％を大きく上回り、東海地方でも最も高い数値になっています。当然介護を要する高齢者も多く、それだけ介護福祉士が求められています。十分な人材が確保できていないのが現状です。平成二三年十月の三重県の実業種の有効求人倍率は〇・七四％であったのに対して、介護分野では二・一二％と高くなっています。

さて、介護の仕事は、素人でもできる単純な仕事ではありません。人間の心の理解、科学的な介護技術、社会福祉の制度などを学び、介護福祉の理念や思想を高めていかなければ責任ある介護はできません。本コースではこれらの学習を通して、介護の専門性を追求することを課題としています。

活動報告

キャリア育成学科 介護福祉コースでは、毎年地域交流の循環として、特別養護老人ホームに赴き、高齢者と学生との交流を持っていきます。今年の二月にも特別養護老人ホーム「報徳園」でレクリエーションを中心とした交流を持ちました。懐かしいのメロディーの合唱から始まり、福笑いや



ハンドベルを一緒にいき、楽しいひと時を過ごして頂けるよう工夫を凝らしました。参加された皆様は、知っている歌を口ずさんだり曲に合わせてハンドベルを振って、「初めての体験」と喜んで見えました。このような学外での高齢者との交流の経験が、介護実習や仕事に就いた時に活かされていくことでしよう。



高田短期大学に入学して一年が経ちました



キャリア育成学科
介護福祉コース二年
中村恵利那

高田短期大学に入学して一年が経ちました。私は介護福祉士になるという目標を持ち入学してきました。

私の思いに残っていることの一つ目は、英語研修でオーストラリアに行きホームステイをしたことです。行く前は英語を話すことができないので不安で

したがホームステイ先の家族は優しく迎えてくれ楽しい時間を過ごすことができました。

二つ目は、介護実習です。最初の頃は利用者さんと何を話したらいいのかかわからず悩みましたが、挨拶をする利用者さんの方から様々な質問をしていただき会話をすることができました。

私は、この一年間で様々なことを学ぶことができました。これから更に成長できるように頑張っていきたいです。

高田短期大学に入学して



キャリア育成学科
介護福祉コース一年
倉地 優也

高田短期大学キャリア育成学科介護福祉コースは、現在一年生十八人と少人数ですが一人ひとり介護に対する強い思いと、高田短大の「やわらか心」を信念に、日々介護の勉強をしています。

私が高田短期大学で介護を学ぼうと決めたきっかけは、「やわらか心」を大切にしているか

らです。小学生のときに施設でのボランティアに参加させていだき、その時に利用者さんからやさしい言葉を掛けて頂いたり、レクリエーションでの交流で高齢者との関わりが楽しいと感じ、介護に関わる仕事がしたいと思えました。

私は介護に必要なものは、「やさしい心」と「思いやる心」だと思っています。私の目指している事は介護の勉強をしながら人として大切な「やわらか心」を学ぶことです。



人口減少社会と労働力移動

山田 亮一

日本は少子高齢社会に留まらず、二〇〇五年からは人口が減少する人口減少社会に突入している。しかも、生産年齢人口（十五〜六四歳）の減少も著しい。このような変化は生産・流通・消費という経済的な面だけでなく、社会的・文化的にも、また、私たちの暮らしにも大きな影響力を与えている。経済活動を重視すれば、もし企業や個人であれば成長の著しい国外へ転出すると解決できるかもしれ

ない。しかし、国内に留まるのであれば、何らかの意図的、政策的介入が必要となる。例えばヒューマンサービスと言われる保育・看護・介護等はどうだろうか。これらは永年、現場で働く労働力不足が嘆かれてきた。供給を上回る需要やニーズがあっても単に市場のメカニズムに頼るだけではその解決は困難である。課題解決のため、意図的・政策的介入が強く望まれる。看護部門はヒューマンサービスの中でも労働力移動が活発で、グローバル化がすすんでいる。本研究では看護部門を基点として、国際的に補完、調和的發展となる労働力移動の関係について論究していきたい。

学生自治会

こんにちは、私たちは学生自治会執行部の十二人です。

私たち十二人の中には、昨年からの活動を始めたサポーターメンバーとして、自治会の仕事に関わらせてもらった学生が七人います。先輩方の姿から学んだことをこれからの活動に生かしていきたいと考えています。

私たち十二人が揃っての初めての活動は、今年一月に開催されたTJC祭でした。今年は、約百三十人の学生が参加し、それぞれがチームワークを発揮しながら競技に臨みました。また、チームで個性のある衣装を着たりして競技以外にも大盛り上がるイベントとなりました。

四月には新入生ガイダンスがあり、初めて自分たちで企画・進行をさせていただきました。そこで昨年に引き続き、サポーターメンバーを募集しました。昨年の自分たちの経験を生かして、学年間の交流を深めながら協力して活動していきたいと思えます。

五月にはバーベキュー大会、そして十月には高田短大の一大イベントである大学祭があります。今年の大学祭は、十月二十五



日(土)、二十六日(日)に行われます。大学祭では皆さんのご意見やご要望も取り入れ、短大全体で大学祭を作り上げていきたいと思えます。また、地域の方々とのふれ合いや、学年間の交流も一層深めていきたいと思えます。皆さんと心に残る素敵な思い出を作れるよう頑張ります。私たちも、まだまだ不安なことやわからないことばかりで、頼りない部分もあると思えますが、皆さんの短大生活がより良くなるように、自治会執行部として一生懸命頑張りたいと思いますので、ご指導の程よろしくお願ひします。

◎執行部の活動内容
 ↓年間行事の企画・予算
 ↓各行事の企画・実施
 ↓卒業アルバム編集

平成26年度 新入生宿泊研修

学務委員長 福西 朋子

毎年恒例の新入生宿泊研修(四月二十四日(木)、二十五日(金))が白山ヴィレッジゴルフ倶楽部で行われました。好天に恵まれ木々の緑の映える清々しい二日間となりました。この行事は、新入生オリエンテーションの締めくくりとして行われ、高短生としての自覚と仲間との協調性、学生・教員相互の親睦を目的としています。学長講話の開講式に始まり、各学科研修やパターゴルフを実施しました。

学科研修

○子ども学科

一日目の午前は「すてきな保育者になるために」の活動として、手遊びや遊びを通してからだを用いた表現を体験しました。二日目は、毎年恒例の「つくって・あそんで・みせて二〇一四」を行いました。限られた準備時間のもとで、ゼミ毎に工夫を凝らした衣装や振り付けが披露されました。発表会にはゼミ教員もダンスに加わり、お祭りのような盛り上がりでした。準備や発表のなかで、学生相互の一体感や協力しあうこと

の重要性を感じとったようです。



○キャリア育成学科

「先生にインタビュー」をテーマにオフィスワーク、介護福祉両コース合同で行いました。事前に考えてきた学科教員についての質問を持ち寄り、グループごとにインタビューをしました。この職務に就こうと思ったきっかけ、仕事のやりがいや辛いこと等の質問から、大学では見えない素顔に迫る質問までをインタビュしました。その後、全員の前でグループごとに報告をしました。普段の先生方からは想像も付かない意外な一面を知ることができて楽しかったという学生の声が多く聞かれました。

パターゴルフ大会

二日間とも絶好のゴルフ日和。清々しい気分でも学科ともパターゴルフを楽しみました。ゼミ別対抗で、真剣にプレーをしました。思うように転がらないボールを追いかけ、カップインしたときは歓声が、外したときは悲鳴が方々から聞こえ、和気あいあいと行われました。まだまだあまり話をしたことのない者どうしでプレーすることや、教える合う事から交流を深め、協力する大切さを学べたようです。その他、バイキング形式の美味しい夕食やコテージでの仲間との語らいもよい思い出となりました。



オーストラリア 英語研修に参加して

キャリア育成学科二年

中西 珠鳳

三月十四日から二六日までオーストラリアに行きました。出発前から先生方に貴重品とパスポートだけは、しっかりと管理するよう何度も言われていました。私は「そんなに危ないのか？」と半信半疑で聞いていました。しかしそれは飛行機の乗り換え地点であった香港の空港で実感しました。とても広い空港でたくさん国籍の人たちがいました。その中で自由行動は正直とても怖かったです。数人の男性が自分たちの後ろや近くを歩いてきただけでとても警戒し、びくびくしていました。「鞆を取られるんじゃないか」と思ってしまい余計に怖くなりました。恐怖心が抜けないまま乗り換えをし、オーストラリアに到着しました。ホストファミリーと対面し、真っ先に言葉の壁にぶつかりました。ネイティブの発音は日本の教材についているCDとは違い、聞き取るのが本当に大変でした。私のホストファミリーの中に日本語を話せる人はいなくて、日常は英語

での会話でした。英語のできない私は会話するのに苦戦していましたが、ホストファミリーはそんな私を気遣ってくれる様に英語で「何か飲み物を飲みますか？」などと毎日何度も声をかけてくれました。私はその度に人の温かさを感じ、最終日に近づくにつれて言葉の壁が少しずつではありましたが無くなってきたのを感じました。

オーストラリアでもう一つ感動したことといえば、やはり街並みの美しさです。日本では見られないデザインの建物や景色、道路沿いに牛や馬がいたり聞いたことのない鳥の鳴き声を聞く度に自然の豊かさを感じました。ホストファミリーには地元で有名な海や高台や庭園を見につれていていただきました。街に出てショッピングをした際には人々の温かさを身を持って感じました。道がわからなくて聞いた時はお店の人、通行人、誰でも優しく教えてくれて、皆とても親切な方たちばかりでした。私が研修前に感じていた外国への恐怖心や警戒心は最終日には全く消えていました。そして帰りの飛行機でも乗り換えがあり行きと同じ香港の空港に立ち寄りしました。自分でも驚くほどにそこは行きとは別の場所の様に

感じました。往路で感じた恐怖心や警戒心は全く無く、少し広い視野で周りを見わたせている自分がいました。皆同じ人間で堂々としていれば何も怖くないと思えることができました。今回の海外研修ではとても良い経験をさせていただきました。生活面、勉強面などでたくさんのお事を学びました。そして、オーストラリアにまた行きたいと思える旅になってよかったと思いますし、また機会があれば必ず行きたいと思いました。



◆ キャリア支援センター ◆

二号館一階の学生ホールに隣接するキャリア支援センターは進路・就職に関する情報がたくさん集まった、高短生の自分探しや就職活動の支援をしている所です。履歴書・エントリーシートの添削や面接練習をはじめ、就職情報の入手やキャリアカウンセリングのため、日々多くの学生の皆さんに気軽に利用していただいています。

皆さんが立ち向かっていく就職活動はサッカーに例えて言うならば、社会人のフィールド（世界）です。学生の皆さんから見ればAway（アウェイ）で、社会人のフィールドで就職活動を戦うには、社会人のことを知らなければ就職活動を勝ち抜くことはできません。社会人の常識から見た学生の活動はどういうものなのか、社会人から見た学生のマナーはいかに低いのか…そういったことに思い（作戦）をめぐらせ、「とりあえず、どこでも会社に入ればいいや」というよりは、自分でやりたい仕事や身に付けたい能力、就きたいポジションなどをイメージしながら、「どうなるかわからない将来に立ち向かう覚悟をする」。そして、「上手く就職活動が進まなくても、何とかしてやるという意欲を持ち続ける」姿勢で、就職活動に取り組んでほしいと思います。

就職活動は、多くの学生の皆さんにとっては初めての経験であり、「いい求人はないかな?」「希望の求人があるけど、どうやって応募したらいいの?」「仕事を

探す上での疑問を解消したい」など、悩みや不安も様々です。そんな悩みや不安をキャリア支援センターでは、学生の皆さん一人ひとりに密着した、きめ細かな支援に努めています。

また、高短ではキャンパスネットのキャリアカルテから先輩の受験報告・求人票を検索することができ、情報収集の方法や、学生の皆さん一人ひとりに合った具体的な活動方法について、アドバイスや情報提供を行っています。

就職活動の中では、社会人と接する機会が多く社会人としての心得としてマナーが重要視されますので、①あいさつはハキハキと!②時間を守る!③「ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）」をする!④話を聞くときは必ずメモをとる!⑤敬語・言葉遣いに気をつける!⑥年上の人とコミュニケーションを意識する!⑦整理・整頓をする!七つのことを心がけ、学生生活を送っていただきたいと思えます。日ごろから心がけることで就職活動の中で活かされ、内定に近づきます。

学科により就職活動開始の時期が異なりますが、就職活動は早めに取り組んでください。

ボランティア活動支援室

ボランティア活動支援室は、ボランティア活動を通して学生時代でしか体験できない貴重な学びの機会を得るお手伝いをしています。場所はキャリア支援センターと保健室の間にあります。

情報は専用掲示板にて案内していますので、ぜひボランティア支援室を訪ねてください。

図書館

図書館の学習支援機能

図書館長 鷲尾 敦

多くの人々が手にするPC、タブレット、スマートフォンなどの情報端末で、インターネット上の記事や情報を素早く検索し閲覧することができるとい時代です。今や図書館は不要の時代？いや、そうではなく、雑多な情報でいっぱいの情報化時代だからこそ、図書館には専門部門としての役割が求められます。短大の図書館に求められる専門機能は、学習を支援する機能です。レポート作成に必要な書籍や雑誌等の記事の検索には、司書の知識が役に立ちます。本図書館では、書籍検索の相談を受けたら、ゼミやグループ単位でプチ研修も随時行っています。季節にあった書籍の紹介イベントや学習状況に応じた書籍の選定も重要な専門機能です。

また、本学の図書館には、「静のスペース」と「動のスペース」があります。「静のスペース」とは静かに書籍を読み、一人でじっくり調べたり考えたりすることができる空間です。「動のスペース」とは、複数名で意見を交換しながら、知の創造をとにもする空間です。この「動のスペース」として「ラー



ラーニング・commonsでのゼミ風景

ニング・commons」を昨年度スタートさせました。授業や学生活動の様々な問題解決や創造活動に、この「動のスペース」が大いに使われることを願っています。

トピックス

入学生全員に

パソコンを配布

事務局次長 藤井 徳雄

情報化が益々進む中、パソコン操作が当然のこととして求められ、就職活動等においてもウェブや電子メールといったインターネットを用いることが一般化しています。学生生活においても日頃よりパソコンに慣れ親しむことが大切であると考え、今年度よりフレキシブルに使えるタブレットパソコンを入学生全員に配布しました。

保健室

保健室では、皆さんが心身ともに健康で充実した学生生活を送れるようにお手伝いをしています。皆さんが学校で体調が悪くなったときや、けがをしたときは応急処置をします。ベッドやソファで休養もできます。また、皆さんが自分のこころや身体について知り、より健康になるためにはどうすればいいかを一緒に考えていきます。社会人になるまでに、こころと身体の健康を気遣える人になってください。

保健室からは、大切なお知らせ

カウンセリング室

「カウンセリング」ってなんでしょう？実は昨年一二月、私もカウンセリングを受けました。そのことを昔のカウンセリングの同僚に話したとき「えっ、先生がカウンセリングを」と驚かれたことは私にとってショックでした。仲間ですら、「カウンセリング」というものを正しく理解していないのですから。もちろん、私の場合は専門家ですから二十分から三十分話した時点で先が見えてきて、もやもやしていたものがスッキリしました。これが「カウンセリング」な

せや健康に関する情報をメールや掲示板等でお知らせしますのでも、必ず見て自分で行動に移してください。

また、こころや身体のこと、対人関係や将来のこと、何か相談したいと思ったときには、保健室に来てください。保健室で皆さんが話してくれた内容は、皆さんの了解を得ずに誰かに伝えることはしません。安心して相談してください。

保健室でカウンセリングの予約をとることもできます。

保健室直通

TEL 059-253-7703

(富永 礼子)

のです。「なんだかわからないけれど」という時、話せば少し、あるいはかなり、楽になるものなのです。気分が悪くなると「吐く」よりも、言葉にして「吐き出す」ことです。

カウンセリング室で話したことは外には洩れませんが、話した内容を批判されることもありません。今年度からは「二二二研究室」を「Counseling Gate」とし、友達とも気軽に話に来てもらえるようにしました。従来のカウンセリング室でも、どちらでも構いません。まずは気軽に利用してみてください。

(橋本 景子)



入試広報委員長 杉浦 礼子
平成二六年三月八日(土)に、プレ・オープンキャンパス「高短フェア」を開催しました。

この春に高校三年生および二年生になった生徒の皆さんおよび保護者の方を対象とするイベント「高短フェア」。今年で二回目の開催となりましたが、来場者数は昨年の約二倍となり進学先へ関心の高さを感じました。当日は在学生が中心となって学科・コース別の体験ブースや相談会などを運営しました。また今年度は、スタンプリリーやお菓子のつかみ取りも企画され、来場者の皆さんは楽しい雰囲気の中で高田短期大学を体験されている様子でした。

来春の高短フェアは平成二七年三月七日(土)に開催します。また、六月十五日(日)、七月十九日(土)には、オープンキャンパスを開催いたします。高田短期大学への入学を検討いただいている方に、ご案内くださいますようお願いいたします。

付属地域連携施設

「地域連携施設」と改称しました

学長 栗原 廣海
 本学は、学術研究の水準の向上と発展、および地域社会への貢献、連携をめざすことを目的として、平成六年に「仏文化教育研究センター」（現在の「仏文化教育研究センター」）を、平成十六年には「育児文化研究センター」を開設し、これらを「高田短期大学教育研究施設」と名づけていましたが、本年度からは、新しく「介護福祉研究センター」を加え、「高田短期大学地域連携施設」と改称しました。間もなくもう一つの研究センターが発足し、四つの研究センターを擁する施設となる予定です。

これら施設の設定・運営目的は改称前と変わりませんが、より地域に根ざした短期大学を目指して、地域への貢献、連携を強化する目的で改称したものです。

四つの研究センターの活動で得られた成果は、必ずや学生の皆さんの学修に活かされるものと信じています。

介護福祉研究センター

平成26年度新規開設

センター長 千草 篤麿
 本学附属地域連携施設の三つめのセンターとして、今年度より介護福祉研究センターが開設されました。

今までは県下の教育・研究機関においては、介護福祉を中心テーマとした研究センターはありませんでした。介護職の量的不足が社会問題になっていきますが、安易に「数だけ増やせば良い」という意見は、将来に責任を持つとしない、急場しのぎの考え方です。介護の質を専門的に研究していくことで、介護職の「質」を高め、そして「量」を増やしていくことが本来の姿です。

当センターでは、広く社会福祉施設や医療機関、公民館等と連携し、地域の介護問題や福祉問題について研究を進めていきます。具体的には、定期的な研究会、セミナー、福祉職場での研修会などの実施と、研究紀要の発行です。研究員としてこれらの活動に参加を希望される方は、本学介護福祉研究センターまでお問い合わせ下さい。

仏教教育研究センター

センター長 金信 昌樹

○ 仏教基礎講座
 仏教基礎講座は、高田派僧侶の育成だけでなく地域の方々の生涯学習に資することを目的として一般にも公開する高田本山寄附講座としての講座です。仏教学、真宗学、仏教史、真宗史、高田派の歴史と法宝物の五講座からなります。今年度で三回目を迎え、昨年も多くの受講者が聴講に來られました。今年も、八月十八日(月)から二二日(金)の五日間にわたって開講します。聴講は無料です。受講を希望される方は事前に申し込んでいただく必要があります。

○ 仏教専門講座
 昨年度から開講した高田本山寄附講座仏教専門講座は、二年目を迎えます。この講座は、仏教や真宗についての専門知識を習得し更なる生涯教育に資し、地域に貢献できることや高田派の僧侶に対して専門的な学習の場を提供すること目的として開講するものです。全十科目を二年一クールとして開講して、今年度は後半の講座になります。八月と三月を除いた毎月一回、基本的に最終金曜日に開講しています。受講者は昨年度の受講

者が引き続き受講されるので、受講を希望される方は、二七年度からになります。

聴講は無料ですが、申し込みは必要になります。

今年度の開講講座と担当者は、次の通りです。

仏教学講読Ⅱ(清水谷研究員)、真宗学概説(栗原廣海研究員)、真宗学講読Ⅱ(金信研究員)、真宗学講読Ⅳ(北島研究員)、真宗史講読(栗原直子研究員) 講義時間は、本学の授業時間に合わせて、九時に第一講座を開始し十七時五十分第五講座を終了します。

○ 公開講座
 今年度のセンターの公開講座は次の日程で行います。

- ・ 第一回講座
 日時：六月二十日(金)
 十三時三十分～十五時三十分
 講師 佐波 真研究員
 講題：「親鸞聖人の思索と表現―和讃をめぐって―」
 会場：高田派本山専修寺宗務院 二階第一会議室
- ・ 第二回講座
 日時：十一月二二日(土)
 十三時三十分～十五時三十分
 講師：北島恒陽研究員
 講題：「仏教再発見―専修寺伽藍の特色―」
 会場：高田派本山専修寺御堂等
 何れも聴講無料です。



○ 現在、当センターでは、中興の祖と仰がれる専修寺第十世真慧上人の著「顕正流義鈔」を中心とした研究を行い、総合的な学術書の出版に向けて鋭意活動を行っています。

又、当センターが所蔵する智恵光院旧蔵の寄贈書籍の所在・登録の再確認と調書を作成し、料紙・綴じ糸破損等箇所に対する補修作業を行っています。いずれは寄贈図書目録を作成できるように図りたいと思っています。

育児文化研究センター

センター長 鷺見 裕子

高田短期大学育児文化研究センターは本学付属の地域連携施設の一つとして、育児教育、子育て問題、児童文化等に関する研究を行うとともに、地域社会への貢献と連携をめざし、子育て支援に寄与することを目的としております。平成十六年の開設より、様々な専門分野の学内外研究員のお力添えと地域の多くの皆様のご理解・ご支援を得て、保育者養成校のセンターとして地域に貢献できる特色ある子育て支援事業を展開させていただきました。今年度も地域の子育て情勢、課題に目を向けて活動を進めてまいります。

*センターの事業方針

基本方針は、育児文化研究と地域貢献及び連携活動の体制づくりとし、昨年度同様、事業や研究活動の充実に努めながら、「研究員の活動充実のための支援」「津市「ひろば」のネットワーク構築拠点となる開放事業」「地域子育て支援団体との連携活動」「津市委託子育て広場ネットワークによる『子育て支援』事業」の四事業を中心に取り組んでまいります。平成二四年度から地域の関係機関より学

外運営委員に加わっていただき、センター事業の企画・実施についてはご意見・評価を得ながら、事業展開しております。

*主な事業内容について

・**開放事業** 本学育児文化室で開催する「おやこひろば たかたん」は、地域の親子の交流する場として四年目を迎えました。原則、毎週月・木曜日の十時～十二時に開催ですが、今年度は月曜日が休日の場合に火曜日への振替開催を計画しております。また、スタッフや専任教員による子育て相談や研究員による子育て講座を取り組んでおります。



・地域連携子育て支援事業

自治体や地域団体等の子育て支援会議への参画、活動を通して県内の子育て団体と連携協働してまいります。また、津市ひろば支

援者の交流会や研修会、保護者研修会、地域関係者を対象とした講演会などを、企画しております。

・学生支援事業

「子育て応援隊」として地域の依頼に応じて子育て支援行事や活動に参加し、学生の学びにつながるサポートをしていきます。

その他、定例研究会開催、グループ研究、育児文化研究紀要発刊、センターだより「いくぶん」発行等により研究活動とその成果や情報発信を行なって参ります。

育児文化研究センターは開設より本年度で十年目にはいります。これまで以上に地域の子育て支援に貢献できるよう努力していきたいと思っております。今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



教員免許状更新講習

子ども学科 實來敬章

平成二一年四月より導入された教員免許状更新講習を本学においても実施しております。十二時間の「必修領域」と十八時間の「選択領域」のうち、高田短期大学では幼稚園教諭免許状を取得している教諭を対象として十八時間の「選択領域」の講座を開設しています。

本学の教員による講義、受講生同士のグループワークやディスカッションなどを通して、受講生の方にとって多様な学びの機会としたいと考えております。

① 開催日・講習名・講師
①十一月三日(月)

「乳幼児期の発達と主な障害の理解」講師・千草篤磨

②十一月九日(日)
「幼児教育と保育者の専門性」講師・實來敬章

③十一月十六日(日)
「子どもの表現活動と教育方法」講師・福西朋子

本年度は定員四十名、仮申し込みは九月三日(水)からとなっております。

諸手続きや講習内容などの詳細については本学ホームページをご覧ください。



高大教育交流への取り組み

入試広報委員長 杉浦 礼子
本学は「高大教育交流」に積極的に取り組んでいます。

高大教育交流とは、単なる学生確保手段を目的としたものではなく、高等学校から本学の教育に対して関わりを求める双方向的な交流を目指し、連携が十分にとれた教育を実現することを目的としています。

平成二五年度には「高大教育交流連絡協議会」を三回開催しました。出席いただいた各高等

学校の先生方からは本学の教育に関して様々な質問を寄せていただき、本学教職員が回答するなど、非常に活発な情報交換がなされました。

また、高大教育交流の一環として実施している本学への見学会や、本学教員が高等学校へ出向き実施する模擬授業や特別講義なども、ますます盛んになってきています。

本学を十分に理解したうえで入学し学んだ後、三重県で必要とされ活躍する、そうした人材を輩出し続けることに繋げていきたいと念じております。

着任のみなさん

着任にあたって



子ども学科
青木 信子

四月より子ども学科で「保育内容・健康」「教育実習」等を担当することになりました。幼稚園現場での経験を生かし、学生一人ひとりに社会で生きる力が備わるような教育ができればと思っています。どうぞよろしく願っています。

笑顔あふれる毎日



子ども学科
長倉 里加

四月より子ども学科にて乳児保育、子どもの保健等を担当させていただくことになりました。夢と希望に満ちた皆さんとともに、子どもたちの笑顔あふれる保育を追求していきたいと思えます。どうぞよろしく願っています。

ともに新たな

スタートを



子ども学科
秋田 郁

十三年間、非常勤として勤務いたしました。今年度より子ども学科の専任教員として新たな出発をいたしました。皆さんの実習や就職がうまくいきますように、精一杯お手伝いさせて

ただこうと思いたすので、よろしく願っています。

共に有意義な学びを！



子ども学科
林 韓燮

四月より高田短期大学の教員としてお世話になります。まだ働いて一ヶ月しか経っていませんが、親切な教職員、元気で明るい学生たちと日々楽しく過ごしています。大学が学生たちにとって有意義な学び場になるように力を注ぎたいと思います。

高田短期大学という空間



子ども学科
大野 僚

正門を抜けると緑に彩られた木々のざわめきに迎えられる、校内に到着すると学生の話し声にあふれた、ちよっとだけ俗世から離れたこの場所。過ごす二年間が、かけがえのない時間となるような学生生活のお役に立てればと思っています。

着任にあたって



子ども学科
藤重 育子

四月より子ども学科で、保育内容言葉・保育実習指導（施設）の科目を担当いたします。学生の皆さんや教職員の方々と同じ方向を向いて頑張ります。どうぞよろしく願っています。

高短での再スタートの機会

キャリア育成学科
中川 千代



四月よりキャリア育成学科介護福祉コースにて、介護概論、生活支援技術等の科目を担当し、再び学生の皆さんと関わる機会をいただきました。福祉分野で働くことの喜びや、様々な人との関わりが素晴らしいと感じています。

育児休暇を経て



総務課
青木 陽子

一年六ヶ月の育児休暇を経て、再び短大にお世話になります。五年ぶりの短大は大きく変わり、以前の記憶は役に立たないものばかりです。新たなスタートとして早くお役に立てるよう頑張りますので、よろしく願っています。

新たな気持ちで



キャリア支援センター
野崎 千恵

就職活動は、様々な業界や職種について知ることや、将来どのような自分になりたいのかを考える貴重な機会です。焦らず、積極的に進めていくことが成功のポイントです。キャリア支援を通して学生の皆さんが希望進路を実現できるようサポートしたいと思います。

お気軽に相談してください。よろしく願っています。

母校への着任



育児文化研究センター
大山 美和

友人たちと楽しく学んだこの母校。今、校舎に響き渡る学生さんたちの明るい声は時空を超えてあの頃に戻ったような感覚にさえさせてくれます。保育士として、母親としての経験が多くの親子さんの力となるよう努めていきます。

着任にあたって



図書館
日沖 歩

五月より図書館でお世話になることになりました。前職と全く異なる職種ですので、仕事を早く、基礎から着実に身に付けたと思います。一年間よろしく願っています。

《平成25年度 退職者》

- | | |
|----------------|-------|
| 教授 子ども学科長 | 山崎 征子 |
| 教授 | 三宅 啓子 |
| 教授 育児文化研究センター長 | 宮崎つた子 |
| 特任教授 入試広報課長 | 浅尾 正男 |
| 准教授 | 小池はるか |
| 講師 | 小菅千恵子 |
| 特任講師 | 織田紀代子 |
| 助教 | 上村 晶 |
| 教学部長 | 澤井 光次 |
| 育児文化研究センター | 小倉 知子 |
| 運営スタッフ | |

同窓会の近況

北端 一子

今年は、久しぶりに七夕に使う紙縫りを作ってみようかなと作り始めました。三十年以上も前に、園長先生に教えてもらったことがきっかけで作ることが出来るようになりました。今は、既製品が出ていますが、その頃は、先生の手作りが主流の時代だったと思います。上手く出来るか心配でしたが、少しずつ思い出して作ることが出来ました。指先に力を入れすぎたり、肩がこったりしながらの作業です。子供たちが喜ぶ顔を夢見て作っています。

さて同窓会短大部会第一回の役員会が、四月二二日に実施。今年も高短祭参加について、各学年の同窓会実施への金銭面援助について、各理事への報告についてなどを話し合いながら、近況を報告したり、互いの健康について話し合ったりしました。卒業すると、なかなか学園に来にくいと思いますので、学園祭を見ながら同窓会をしたらどうでしょうか？懐かしいと思えますよ。待っています。

卒業生からの メッセージ

- ①勤務先
- ②就職して嬉しかったこと、辛いこと
- ③将来の夢
- ④高田短大とは
- ⑤後輩へのメッセージ

憧れの先生となった今

子ども学科 平成二五年度卒
赤塚 小春



①鈴鹿学園 ②日々成長していく子どもたちの姿を側で見守り、

援助していただけることです。子どもたちの素敵な笑顔がみられることに、喜びを感じています。幼稚園教諭としてまだまだ未熟なため上手くいかないことも多いですが、先輩方からのアドバイスは今後に活かしていただけるよう努力しています。③先輩方のような立派な先生となり、子どもたちや保護者、先輩方から必要とされる人間になることです。一日一日を大切に、子どもたちと共に成長していきたいです。④同じ志をもった仲間に出会い、それぞれの夢に向かって努力し、子どもの頃から夢を叶えることができた大切な場所です。たくさんの方の先生方に支えられ充実した二年

間を送ることができました。⑤辛いことや苦しいことがあっても、周りへの感謝の気持ちを忘れず、あつという間の二年間を楽しんで下さい。

社会人になって

オフィス人材育成学科 平成二五年度卒
小林 由奈



①三岐鉄道株式会社 ②社員の皆さんが優しく接してくださり、とても明

るく温かい会社に入社することができたと感じました。その一方、覚えることが多く、電話応対ではお客様の要望にきちんと応えられないことがあり悔しく思うこともありましたが、少しでも早く仕事を覚えられるよう努力していきます。③社員の皆さんから「あなたでなければ」と必要とされる人材になりたいです。また、毎日前向きな気持ちで楽しく仕事をしていきたいです。④高田短大では、オフィススキルやビジネスマナーなど社会に出て必要なことをたくさん学ぶことができました。また楽しい笑い話から真剣な相談事までたくさん話を聞いてくださる優しい先生方がいて心の支えとなりました。友達にも恵まれ思い出がいっぱいできた二年

間でした。⑤二年間はすごく短いです。社会に出て活かせることをたくさん学び、友達とたくさん遊び、素敵な短大生活を送って下さい。

新生活のスタートをきって

人間介護福祉学科 平成二五年度卒
大田 愛



①介護老人福祉施設 明和苑 ②利用者の方一人ひとりによつて

援助の方法が異なるため、覚えることがたくさんあり、大変ですが、利用者さんの笑顔を見れた時は心が温かくなり、こちらも笑顔になります。周りの職員の方には、親切に熱心にご指導していただき、一日一日が勉強であると感じます。③介護を必要とする方の一人ひとりの思いや声に耳を傾け、共に喜びや苦しみを分かち合えるような介護福祉士になることです。④同じ夢を持った仲間、その夢を応援してください。先生方がいる、温かく安心できる場所です。また、勉強が取り組みやすいよう設備や環境も整っていて、とても過ごしやすい学校です。⑤二年という時間はあつという間に過ぎていきます。後悔のないよう一日一日を大切に、勉強も遊びも充実した短大生活を送ってほしいと思います。

公告 平成25年度における学校法人高田学苑の決算は次のとおりです。当学苑寄附行為第40条の規定に基づき公告いたします。

貸借対照表 (平成26年3月31日)

(単位:円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(7,687,256,586)	(7,770,288,379)	(△83,031,793)	固定負債	(244,630,270)	(257,369,996)	(△12,739,726)
有形 固定 資産	(6,696,177,361)	(6,878,277,563)	(△182,100,202)	退職給与引当金	244,630,270	257,369,996	△12,739,726
土地	865,121,227	865,121,227	0	流動負債	(417,321,891)	(430,962,616)	(△13,640,725)
建物	4,666,572,309	4,810,510,751	△143,938,442	未払金	39,933,461	33,798,135	6,135,326
構築物	784,720,791	833,415,415	△48,694,624	前受金	287,628,796	308,428,135	△20,799,339
教育研究用機器備品	124,177,878	119,646,963	4,530,915	預り金	28,648,701	29,227,670	△578,969
その他の機器備品	6,064,278	7,452,551	△1,388,273	修学旅行費預り金	55,566,508	56,358,676	△792,168
図書	213,315,900	212,111,178	1,204,722	卒業諸費預り金	5,544,425	3,150,000	2,394,425
車 輛	6,285,500	100,000	6,185,500	負債の部合計	(661,952,161)	(688,332,612)	(△26,380,451)
学苑林	29,919,478	29,919,478	0	基本金の部			
その他の固定資産	(991,079,225)	(892,010,816)	(99,068,409)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
借地権	2,257,500	2,257,500	0	第1号 基本金	11,079,342,521	11,069,731,633	9,610,888
電話加入権	1,285,980	1,285,980	0	第4号 基本金	181,000,000	181,000,000	0
施設利用権	821,170	901,880	△80,710	基本金の部合計	11,260,342,521	(11,250,731,633)	(9,610,888)
有価証券	2,853,674	2,853,674	0	消費収支差額の部			
差し入れ保証金	350,000	350,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
退職給与引当特定資産	261,008,500	261,008,500	0	翌年度繰越消費支出超過額	3,702,676,396	3,627,042,273	75,634,123
施設設備拡充引当特定資産	594,750,000	491,480,000	103,270,000	消費収支差額の部合計	(△3,702,676,396)	(△3,627,042,273)	(△75,634,123)
長期火災保険特定資産	112,478,340	112,478,340	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
長期前払金	15,274,061	19,394,942	△4,120,881	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	8,219,618,286	(8,312,021,972)	(△92,403,686)
流動資産	(532,361,700)	(541,733,593)	(△9,371,893)				
現金預金	243,439,560	309,278,095	△65,838,535				
未収入金	189,638,936	172,225,431	17,413,505				
立替金	37,736,671	549,731	37,186,940				
修学旅行費預り資産	55,566,508	56,358,676	△792,168				
卒業諸費預り資産	5,544,425	3,150,000	2,394,425				
前払金	435,600	171,660	263,940				
資産の部合計	(8,219,618,286)	(8,312,021,972)	(△92,403,686)				

平成25年度卒業生 就職先等一覧

子ども学科

◆幼稚園(公立)

松阪市立松尾幼稚園

◆幼稚園(私立)

あおい幼稚園、桜あおい幼稚園、白百合幼稚園、すずか幼稚園、清泉幼稚園、第二くら幼稚園、高田幼稚園、津田第一幼稚園、津田大山田幼稚園、津田第二幼稚園、津田第二幼稚園、道伯幼稚園、とさわ幼稚園、富田文化幼稚園、まつさか幼稚園、まると幼稚園、みずきが丘道伯幼稚園、ルーテル二葉幼稚園

◆こども園(私立)

暁の星こども園、修道こども園、渋谷区社会福祉事業団神宮前あおぞらこども園にじ

◆保育園(公立)

伊勢市立御園第一保育園、大台町立川添保育園、鈴鹿市立神戸保育所、津市立白山保育園、津市立北部保育園、松阪市立西保育園、明和町立みどり保育所、度会町立棚橋保育所、度会町立中之郷保育所

◆保育園(公立) 嘱託職員

伊勢市立明倫保育所、伊勢市立あけぼの園、伊勢市立二見浦保育園、鈴鹿市立玉垣保育所、多気町立相可保育園、川合保育園、津市立高茶屋保育園、津市立野村保育園、東員町立みなみ保育園、松阪市立ひかり保育園こだま分園、四日市市立日永中央保育園

◆保育園(私立)

いずみ保育園、いそやま保育園、嬉野保育園、大里保育園、亀山愛児園、亀山第三愛護園、川崎愛児園、神戸保育園、桔梗が丘保育園、岸田保育園、久保保育園、こどもの杜ゆたか園、さくら保育園、さくら保育園(河芸)、志登茂保育園、白塚愛児園、白鳩保育園、第二しまの杜保育園、大安中央保育園、高岡ほりりん保育園、たけのこ保育園、長寿保育園、津愛児園、津カトリック保育園、つくし保育園、つくし第二保育園、鼓ヶ浦保育園、ドリームハウス保育園、長太の浦保育園、なのはな保育園、にじいろ保育園江田、ハートピア保育園、ひかり保育園、ひまわり保育園、藤水保育園、船江保育園、ほろりん保育園、マリア保育園、三重愛育保育園、三重保育園

◆福祉施設等

あさけ学園、いなべ市障害者活動支援センター、里山学院乳児院、しらすき園、聖マツテヤ子供の家、たるみ児童福祉会館、天理教三重互助園、三重済美学院、伊賀さくら苑託児所

◆企業等

(株) マルトアステム、宇治山田歯科、

相好(株)、ますだこどもクリニック、明和病院など(こ)

◆進学等

名古屋経済大学人間生活学部教育保育学科、中日美容専門学校美容科

オフィス人材育成学科

◆公務員

◆建設業

(株) ルーテックサクライ

◆製造業

(株) イワキ、三重鋼業(株)、丸一(株)、松本産業有

◆電機・ガス・熱供給・水道業

朝日ガスエナジー(株)

◆情報通信業

(株) サイネックス

◆運輸業

三岐鉄道(株)

◆卸小売業

(株) 戸田医科器械店(株) 林イマニテイ(株) バルパーク(株) 名給

(株) ミツイパウマテリアル、東海マツタ販売(株)、中北薬品(株)、三重トヨタ自動車(株)、三重ヤクルト販売(株)、(有)エイワン

◆金融業

(株) 第三銀行、(株) 百五銀行、(株) 三重銀行

◆不動産業・物品賃貸業

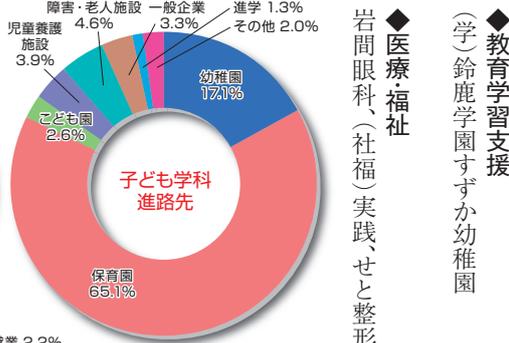
(株) 杉新衣裳店

◆学術研究・専門・技術サービス業

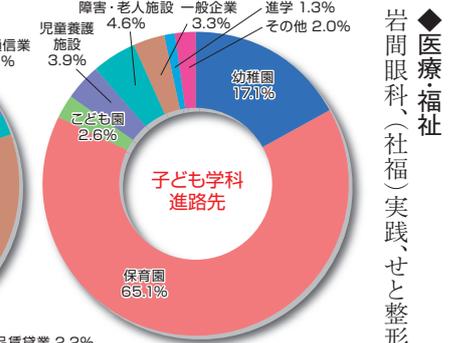
砂子貢税理士事務所

◆生活関連サービス業・娯楽業

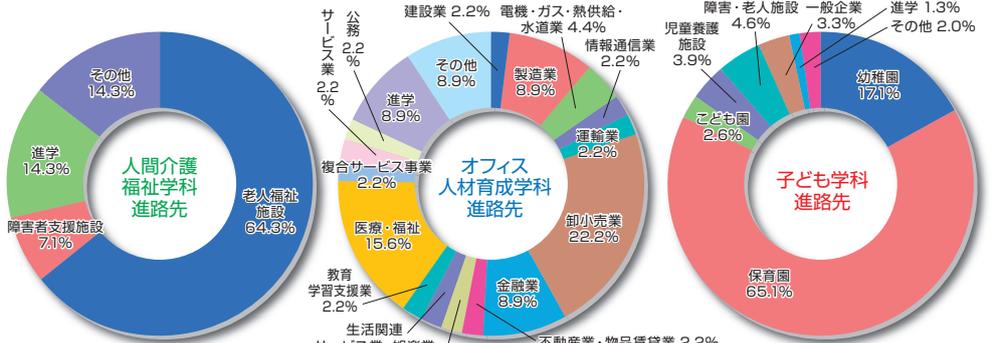
子ども学科 進路先



子ども学科 進路先



子ども学科 進路先



田中病院、野町どい眼科、吉田クリニック
◆複合サービス事業
津安芸農業協同組合
◆サービス業
高田本山
◆進学等
鈴鹿国際大学国際人間科学部国際学科、ユマニテック調理製菓専門学校

人間介護福祉学科

◆老人福祉施設
鈴の丘、嘉祥苑、サンビュー四日市、サンヒルスガーデン(社福)実践、高田光寿園、報徳園
◆障害者支援施設(社福)夢の郷
◆病院
明和苑
◆四大進学
鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科臨床心理コース、鈴鹿国際大学国際人間科学部観光学科

編集後記

皆様のご協力によりまして高田短期大学通信第49号発行の運びとなりました。今号は「介護福祉研究センター」の開設「入学生全員にパソコンの配布」等を掲載いたしました。今後ともご支援を賜りますよう、お願致します。

※「高田短期大学通信」題字デザインは、卒業生 齋藤真美さんの作品です。